

VII 学校研究

1. 研究主題

子どもが主体的に学び、目標達成する算数科の授業 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

2. 主題設定の理由

昨年度は、研究主題を「子どもが目標達成し、力をつける算数科の授業づくり」、副題を「個別最適な学びと協働的な学びの充実」とし、個別最適な学びと協働的な学びを充実させながら子どもが目標達成し、力をつける授業改善をめざし、研究を進めてきた。そのために、付けたい資質・能力を明確にすることでねらいに応じた授業展開を工夫したり、自分の考えを根拠をもとに筋道立てて表現する指導を充実させたりして、子どもが主体的に考え続け、学びを広げ深める姿を追求してきた。また、ヒントカードの準備等指導の個別化だけでなく適用問題やふり返りの工夫等学習の個性化も図ることで、子どもが自己調整しながら学びを進めていけるようにしてきた。

研究の成果としては、

- 単元計画表の活用と、学期ごとに重点単元を決めて検証問題に取り組んだことにより、筋道立てて考えを表現しようとする姿が多く見られるようになった。さらに、そこから子どもにどんな力がついてどんな力が足りなかったのかといった課題だけでなく授業改善の視点も見つけることができ、次の単元の指導に活かすことができた。
- 児童からペアやグループ活動を求める声が増え、自分の考えを図などの根拠をもとに説明しようとする児童の姿が多く見られるようになり、教師自身も、思考を深める問い返しを意識して行えるようになってきた。
- これまで個人思考→全体交流としていた時間を、一体的な個別学習の時間ととらえ、学習形態や学習内容（適用問題等）などを子どもに委ね、自分で判断・選択できる場としたことで自己調整しながら学ぶ姿が見られるようになった。

ことなどがあげられる。

その一方で、

- △答えは分かっているが、誰もが分かる説明や問題に適した答え方ができない児童の姿や、図形領域において定義と性質がまざってしまい、問いに対して正確に答えられない。
- △個別学習を取り入れると、算数が得意な子と苦手な子の間に差が見られるようになった。
- △問題の数字を変えて考えるなど、発展的に問題に取り組むところまではまだいけないので、学びを調整する時間として、1人ひとりに応じた個別学習をさらに充実させていく必要がある。

などの課題が明らかになった。

そこで、今年度も主体的・対話的で深い学びの実現に向け、個別最適な学びのさらなる充実と考えを練り上げる協働的な学びの充実に努め、教師の適切な働きかけ等にも磨きをかけていくことで、個別最適な学びと協働的な学びの往還と一体的な充実を図っていききたい。そして、一人ひとりの子どもが主体的に学び、目標達成する授業の実現を目指していきたいと考える。